

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |            |           |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 2891500163        |            |           |
| 法人名     | 社会福祉法人 弘道福祉会      |            |           |
| 事業所名    | 洲本中川原グループホームラガール  |            |           |
| 所在地     | 兵庫県洲本市中川原町安坂988番地 |            |           |
| 自己評価作成日 | 令和4年10月19日        | 評価結果市町村受理日 | 令和4年12月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                      |  |  |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション    |  |  |
| 所在地   | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和4年10月27日           |  |  |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者が少しでも本来の力を発揮できるよう、日々のちょっとした表情や変化を注意深く見守り、その人らしい生活を尊厳をもって送れるように支援をしている。家族とのコミュニケーションは欠かせない重要なこととして捉え、定期的に近況報告をしている。また一人一人の職員が接遇を身につけ入居者、家族と接している。新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減ったが車窓ドライブを実施して気分転換を図り、施設内では納涼祭、文化祭、鍋パーティー、しょうぶ湯などで季節感を味わっていた。地域とのかかわりも大切と考え掃除や草刈りの行事には欠かさず参加している。主治医とも定期的に連絡や報告を行って指示をいただき、入居者の状態変化に対処している。新型コロナウイルス感染対策として職員週2回の抗原検査、手指消毒、マスク着用、体温管理、フィジカル・ディスタシングなどを徹底し感染発生時の研修も行っている。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く医療福祉事業を展開する法人が運営する総合福祉施設の中にあり、地域貢献、各種会議・委員会、計画的な研修・訓練、施設行事、医療連携など施設全体で体制を整備し、事業所の運営やサービスにも反映している。グループホームの特長を活かし、明るく会話が弾む家庭的な雰囲気の中で、PDCAサイクルによるケアマネジメントの下、生活歴やその人らしさを大切に自立した生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。日々のレクリエーション、季節に因んだ制作や行事、手作りパンの日や手作りおやつの日、家事への参加支援等、日常生活の中で楽しみや季節感が感じられるように努めている。ケアセンター便り(毎月)、面会時(ガラス越し面会)や電話連絡等で近況を報告し、家族の意向の把握に努め家族とのコミュニケーションを大切にしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|--|--|---|--|
| 56<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57<br>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59<br>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66<br>職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62<br>利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |   |  |

自己評価および第三者評価結果

| 自己                 | 第三者 | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている   | 週1回の朝礼の中で理念を復唱し、またスタッフルームに理念を掲示し実践に繋げている。一人ひとりの思いを大切に、一人ひとりに寄り添い、一人一人が心穏やかに過ごせる生活の場を提供できる支援を行っている。                                    | 法人の理念・基本方針を作成し、基本方針に「地域に貢献できる施設」として地域密着型サービスの意義を明示している。玄関・地域交流室・各フロアのスタッフルームに掲示し、朝礼(週1回)で唱和し共有を図っている。新人研修や4月の研修に取り入れ理解を深めている。理念・基本方針をもとに、グループホームの年間目標と具体策を作成し、グループホーム会議で中間期と年度末に振り返りを行い実践に取り組んでいる。 |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している   | 文化祭や夏祭りなど感染対策を実施し入居者と職員のみで開催している。オレンジカフェ、百歳体操、クリスマス会などで地域交流を行っていたが新型コロナウイルス感染対策で自粛している。近隣の草刈りは地域の方々と共に行っている。2か月に1回の運営推進会議で助言をいただいている。 | コロナ禍以前は、100歳体操・ひまわり会・オレンジカフェ・祭り・学校行事等に利用者と一緒に参加し、ボランティアの来訪や施設の祭りへの地域住民の参加等、積極的に地域交流を行っていた。現在は、毎月の「ケアセンターだより」の配布、運営推進会議(書面会議含む)、近隣の草刈りへの参加、移動スーパー・病院・美容院など地域資源の利用など、可能な方法で地域とのつながりが継続できるよう取り組んでいる。  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 新型コロナ感染防止のため、ひまわり会やオレンジカフェの参加を自粛しており色々な方々と認知症について話す機会が減っているが、ケアセンター便りや運営推進会議などを通して認知症への理解が得られるよう努めている。                                |  |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 第三者 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|-----|---|---|---|--|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 4  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 2か月に1回運営推進会議を実施し地域の代表の方に資料やスライドで入居者の日常やサービス内容などを報告し意見や助言をいただいている。コロナ禍で中止の場合は各委員を訪問し資料を配布しペーパー会議としている。 | 利用者代表・家族代表・地域代表・地域包括支援センター職員・知見者を構成委員とし、小規模多機能事業所と合同で、2ヶ月に1回開催している。令和4年度は、5月・9月は書面会議、7月は集合会議を行っている。会議では、資料とパワーポイントを用いて、利用者の状況・事業所の活動や取り組み等を報告し、参加者と意見・情報交換している。書面会議の際は、資料とパワーポイント資料を構成委員に配布している。議事録は、総合受付に設置し公開している。  | 書面会議の際は、配布する資料に返信用紙を同封し、返信された意見・情報等を次回の会議で共有する等、書面会議でも意見・情報交換できるよう工夫されてはどうか。 |
| 5  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                 | 地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に参加いただき、入居者の情報を報告、また助言をいただいている。入居者の事故報告や困難事例は介護福祉課などへ相談し解決策や助言を頂いている。           | 地域包括支援センターと、運営推進会議(書面会議含む)を通して定期的な連携があり、随時にも利用者支援等について相互に相談し協力関係を築いている。報告や運営上の質問・利用者支援に関する相談等があれば、市の担当窓口で電話や訪問で問い合わせ助言を受けている。市からの新型コロナウイルスや運営に関する情報提供や通知は施設が受け、感染予防対策や適正な運営に反映している。   |  |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 高齢者虐待・拘束廃止委員会や毎月のグループホーム会議や勉強会などで身体拘束をしないケアの基本を学び実践している。またアンケートを実施し協議を行っている。                          | 「身体拘束適正化の指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。施設合同の「高齢者虐待・拘束廃止委員会」を2ヶ月に1回開催している。委員会の年間目標の設定、職員自己点検アンケートの実施と検証等を通して、高齢者虐待・拘束廃止に取り組んでいる。各フロアのスタッフルームに「委員会の年間目標」と「スピーチロックについて」を掲示し、委員会の議事録を回覧し、職員の周知を図っている。年間研修計画に沿って、施設合同の研修会で「虐待防止・身体拘束廃止」研修を年2回実施している。研修に参加できなかった職員は、資料回覧で周知を図っている。エレベーターの使用には操作が必要であるが、外出の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように配慮している。 |  |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 第三者 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  | (6) | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている     | 高齢者虐待・拘束廃止委員会や部署会議などで高齢者虐待防止関連法について協議し、職員が虐待防止を意識し業務に取り組んでいる。職員間で気づいた点を互いに注意し合っている。ストレスチェックを実施しストレスによる虐待の防止に努めている。          | 「高齢者虐待防止」についても、「身体拘束廃止」と同様に、委員会・施設内研修・自己点検アンケート等により、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。管理者が明るく開放された雰囲気づくり、相談しやすく協力し合える職場環境づくりに努め、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。施設長・管理者による定期的・随時の個人面談、毎年のストレスチェック、メンタルヘルス相談窓口の設置等、法人・施設としても相談しやすい体制作りを行っている。また、環境改善委員会を設置し、職員アンケートも実施し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。 |                   |
| 8  | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入居者で成年後見に制度を利用されている方がおられ支援を行っている。研修会や勉強会などで成年後見人制度について学んでいる。  | 権利擁護に関する制度についても、毎年施設内研修で研修を実施し、今年度も計画している。現在は、成年後見制度を利用している事例はない。以前は、後見人への金銭関係書類の提供・定期的な報告等、管理者・計画作成者が中心となり制度利用を支援していた。今後も、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が窓口となり関係機関につなぐ体制がある。   |                   |
| 9  | (8) | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | 入居の際は契約書を2部準備し入居者と事業所との契約が不備なく行えるようにし契約内容の説明を行っている。入居者の状態変化に対応すべく入居後の支援についての協議も重ねている。介護保険制度の改定、手続きなどの必要書類の作成は説明を行い同意を頂いている。 | 入居希望があれば、現在は、パンフレット・料金表を郵送し、主に電話でサービス内容等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努めている。特に詳細な説明が必要な、料金・重度化・看取り・リスク説明等については、別書面を作成して説明し同意を得ている。契約内容の改定時には、変更向内容についての書面を郵送し、電話等で説明し、同意を得ている。  |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 第三者  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (9)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                | 苦情相談の窓口や苦情ボックスを設けていることを契約時に説明をしている。コロナ感染拡大で面会される家族が少なくなり電話で日々の様子をお知らせしている。入居者には利用アンケートを実施し意向を反映させている。家族の代表の方に運営推進会議に参加していただいている。 | 家族の来訪時、電話連絡時に利用者の近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。ガラス越しの面会、「ケアセンター便り」の郵送(毎月)等で利用者の様子や行事・活動等を伝え、玄関ホールに意見箱を設置する等、意見・要望を表しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、個別の支援に反映している。また、各種委員会が、入居者アンケートを、テーマ別に年に4回程度、聴き取り調査で行い、利用者の意見・要望をサービスに反映できるように取り組んでいる。   |                   |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                 | 毎月1回グループホーム会議を実施し職員に意見や提案などを出してもらい、入居者がいきいきとしたより良い生活を送れるよう職員で協議を行っている。毎年2回、人事考課で職員と面談を行い意見や提案を聞き改善を行っている。                        | 月に1回、内容に応じて、グループホーム会議かフロア会議を行っている。グループホーム会議では、事業所全体に関する共有事項についての報告や検討を、フロア会議では、各フロアの利用者や業務についての情報共有や検討を行っている。会議の前に協議内容について職員の提案を募り、会議で多くの職員の意見が反映できるように取り組んでいる。施設内の各種委員会に事業所から委員が出席し、また、各種委員会が職員アンケートを実施し、職員の意見をサービスや運営に反映できる仕組みが。会議録・委員会議事録は、回覧により周知を図っている。定期的には年2回、また、随時にも個人面談を行い、個別に意見を聴く機会も設けている。 |                   |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年2回、人事考課を実施している。各職員が目標を設定し自己評価を行い面談で評価をし意見や提案を聞いている。自己評価する事によりそれぞれがスキルアップしていけるよう環境にも配慮をし取り組んでいる。                                |   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>三                 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------------------------|--|--|------|-------------------|
|                              |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13                           | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | それぞれの職員に合った内容の研修を提供しスキルアップして行けるよう取り組んでいる。「認知症実践者研修」を受講しレベルアップに繋げている。また機能訓練士、栄養士などとのチームケアの取り組みも実施している。              |      |                   |
| 14                           | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染防止のため同業者との交流クリスマス会、オレンジカフェなどでの交流が行えず相互間の訪問活動ができない状態にあった。居宅会議事業所との情報共有を図ると共に、入居希望の家族や老健施設からの情報提供にも応じている。 |      |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |  |  |      |                   |
| 15                           | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 本人が困っている事や不安に思っている事は傾聴し入居前にアセスメントを行っている。趣味や生活歴も伺い、その方に合ったレクリエーションなど楽しみを持ち生活していけるよう提案する事により安心しされ信頼に繋げている。           |      |                   |
| 16                           | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 利用者を中心に家族に思いを十分に聞けるよう、家族とのコミュニケーションをとって信頼関係を作っている。介護計画も入居者、家族の思いを伺い安心して支援を受けていただけるよう取り組んでいる。                       |      |                   |
| 17                           | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 「今、望まれている事は何か。」「本人ができる事は何か。」ということに目を向け、多くの情報の中で今必要なサービスを見極め取り入れている。また必要であれば他の介護支援サービスの情報提供も行っている。                  |      |                   |
| 18                           | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 本人が「できる事」を常に考え、できる事を職員と共にやって頂いている。食器拭き、洗濯物をたたむなどの軽作業で役割を持ち職員と共存関係を築けるように努めている。                                     |      |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第三                      | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|--|--|--|-------------------|
|                                    |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19                                 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 入居者の日常の様子は、家族に毎月ケアセンター便りを送り伝えている。怪我や転倒、体調不良などは電話で連絡をし詳細を報告している。                          |  |                   |
| 20                                 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                | 本来は外出や面会などで家族や親しい方々と会い過ごされていたが、現状はコロナ禍でありその機会が限定されている。ガラス越し面会で家族やなじみの方と接する機会を設け支援を行っている。 | 馴染みの人や場所について、入居時は「入居前調査票」等で、入居後は日々のコミュニケーションの中で把握に努めている。コロナ禍以前は、家族・親類・友人等の訪問、地域の催しへの参加、施設内行事での交流、地域への外出等で、馴染みの人や場所との関係継続を支援していた。現在は、通常の外出や交流は休止しているが、ガラス越しの面会・電話・手紙・馴染みの美容院や病院への同行支援など、可能な方法で関係継続できるよう努めている。 |                   |
| 21                                 | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | デイルームでの座席を変えたりレクリエーションで孤立しないよう取り組み、入居者の皆様が良い関係でいられるよう支援をしている。                            |  |                   |
| 22                                 | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | グループホームの利用契約が終了しても関係を絶たず、入院の方であれば状態をうかがうなど連絡を継続し相談や支援を続けている。                             |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |  |  |  |                   |
| 23                                 | (12) ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                    | 入居者一人ひとりに思いを伺い細かな行動を見逃さないよう努めている。困難な場合は家族に話を伺い、本人にとってより良いサービスを検討している。                    | 利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時は「入居前調査票」「入居申込書」等で、入居後は日々のコミュニケーションの中で把握に努め、介護計画やレクリエーション等に反映できるよう取り組んでいる。また、聴き取りのアンケート調査から把握した思いや意向も、委員会で検討しサービスに反映している。把握が困難な利用者については、表情・反応・動作から推察したり、家族や関係者からの情報を参考にして把握に努めている。   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第<br>三 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|-------------------|---|---|---|-------------------|
|                   |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24                | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている  | 個々のできる事や興味のある事など一人ひとりの生活歴や情報を把握し日々の生活が充実したものになるように努めている。  |   |                   |
| 25                | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている  | 日々の生活で入居者一人ひとりの様子を把握し職員全員が情報を共有できるようにしている。また日々の様子を申し送りや日誌に記録し何時でも閲覧できるように保管している。                  |   |                   |
| 26                | (13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者本人、家族の意向や要望を伺い、日々の様子を把握し課題やニーズを導き出して介護計画を作成している。体調面、精神面、食事の摂取状態など日々の状態をケアチェック表を用いて介護計画を作成している。 | 「入所前調査票」「利用者申込書」「認定調査票」で生活歴や趣味・嗜好、ADL、今後の要望等を把握し、「アセスメントシート」を基に初回の「介護計画書」を作成している。利用者の介護計画書は各ユニットで「ケアプラン確認ファイル」に取りまとめ、介護計画の内容を定期的に関覧して職員に周知を図っている。利用者個々のサービス内容に基づいて作成している「週間サービス計画表」に沿って、日々のサービス実施状況を「介護記録」に時系列で記録し、介護計画との整合性が明確になる工夫がある。職員の意見を反映させて毎月モニタリングを行い、定期的には個々に応じて3ヶ月・6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。見直し時はモニタリングと「ケアチェック表」で再アセスメントを行い、担当者会議を開催している。担当者会議には本人・家族、必要に応じて医療関係者や管理栄養士が参加し、それぞれの意見・要望・助言を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。 |                   |
| 27                | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                             | 入居者の日々の様子や状態の変化を個々に記録し申し送りノートなどを活用し情報を共有している。毎月モニタリングを行い計画のみ見直しを行っている。                            |   |                   |



洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 者    | 第三 | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|----|--|---|---|-------------------|
|    |      |    |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      |    | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる   | 入居者の状態に変化が生じた場合は、入居者、家族の必要に応じたサービスが提供できるよう取り組んでいる。状態の変化には柔軟に取り組んでいる。  |   |                   |
| 29 |      |    | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している             | 認知症カフェや百歳体操など入居者が活用できる地域資源の把握に努め安心して暮らせるよう支援を行っているが、コロナ禍で活動を自粛しているものが多い。成年後見制度を利用されている入居者がおられる。                                 |   |                   |
| 30 | (14) |    | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している        | 家族が付き添い受診に行かれる方、また施設内で往診を受けられる方がおられ、往診の場合は主治医に入居者の状態を報告し職員が付き添っている。主治医には往診時、電話で連絡するなどして相談を行っている。受診同行の場合は医師に状態を報告し指示を受けるようにしている。 | 契約時に今後の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。提携医療機関の内科往診と希望に応じて眼科往診が受けられる体制があり、週1回訪問看護師が利用者個々の健康管理を行い医療連携を図っている。かかりつけ医への通院受診時は基本的に家族の同行を依頼しているが、状況に応じて職員が同行支援している。緊急時には施設看護師が連携し、迅速に対応する体制がある。受診結果は「介護記録」「申し送りシート」「支援経過記録」に記録して職員に周知を図り、家族に伝え情報共有している。 |                   |
| 31 |      |    | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の入居者の様子での気づきを職場内の看護師や訪問看護師に報告している。訪問看護師は週2回来られる。互いに入居者様の情報を共有し、支援にあたっている。急変時などは主治医、訪問看護師などに連絡をし迅速な対応を行っている。                   |   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 第三者  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 退院時にカンファレンスに参加し医療関係者と情報共有を行い、入居者の状態把握や入退院の日程について調整し、家族や本人の意向に沿い対応を行っている。                          | 入院時は「入院情報提供書」で医療機関に情報提供している。面会制限がある現在は、主に電話で家族や医療連携室と連絡を密に情報交換を行い、早期の退院に向け支援している。退院前カンファレンスに参加して利用者の現状を具体的に把握し、入院中に把握した情報は「介護記録」「申し送りシート」「支援経過記録」で職員間で共有している。退院時には医療機関から「看護サマリー」で情報提供を受け、退院後の適切な支援に活かしている。   |                   |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居契約時に、重度化や終末期に向けた施設で可能な対応方針を十分に説明し、適宜状態に応じ、家人の意向を伺い、主治医や訪問看護と連携を図り、助言や支援など頂きターミナルに向けて支援に取り組んでいる。 | 契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」に沿って、本人・家族に事業所の方針を丁寧に説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、家族に対し主治医からの現状説明があり、事業所としてできる事・できない事を改めて説明し、家族と認識を共有している。今後の方針について話し合いを重ねながら家族の意向を確認している。看取り介護の希望がある時は「看取り同意書」、看取りに向けた「介護計画書」、状態に適した「介護対応手順書」を作成し、医療連携を図りながらチームで支援に取り組んでいる。「看取り後の手順書」も整備されており、手厚い支援体制がある。経過については「介護記録」「申し送りシート」「支援経過記録」に記録し、職員間で情報共有している。年間研修計画に沿って、施設合同の研修会で「ターミナルケア」研修を実施している。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急時のマニュアル作成を行い資料の配布や、勉強会、消防署に救命講習などの講習を依頼し心肺蘇生や、AEDの研修を受け緊急時に対応できるよう訓練を行っている。                     |  |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>番号                         | 第三<br>者 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|---------|--|--|--|-------------------|
|                                  |         |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35                               | (17)    | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な防災訓練や地震、土砂災害の訓練を実施している。災害時マニュアルを作成、配布し、全職員の周知を行っている。、定期的な非常食の点検や必要物品の購入などを行い災害時に備えている。 | 防災委員会で、「火災」「地震災害」「土砂災害」「停電」「伝達」の施設合同訓練をそれぞれ年2回年間計画に盛り込み、感染状況を鑑みながら順次実施している。今年度は火災訓練(5月)、土砂災害訓練(6月)、伝達訓練(10月)を実施した事を記録で確認した。火災総合訓練は主に夜間想定で、利用者も参加して行っている。「行事計画書」に計画内容・実施記録を残し、職員回覧で訓練内容を周知している。「緊急時の連絡網」「地震発生時の対応フローチャート」等をスタッフルームに掲示し、日頃からの意識付けを図っている。災害に備えた非常用食料・備品等は施設の栄養課が管理し、事業所の倉庫に保管している。  |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |         |  |  |  |                   |
| 36                               | (18)    | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている         | 入居者の想いを尊重し個々に応じた接し方や、プライバシーに配慮し、入浴やトイレなどは羞恥心に配慮し、カーテンやドアで可能な限り見えないよう不快感の無い対応を行っている。        | 施設合同の研修会で「プライバシー保護」「個人情報」「接遇」「認知症」研修を実施し、利用者尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を継続的に設けている。定期的な職員自己点検アンケートの実施や、各フロアのスタッフルームの「接遇16か条」「スピーチロックについて」の掲示等でも、職員一人ひとりの振り返りや意識付けを図っている。気になる言葉かけや対応に気づいた時には、職員同士で随時注意し合える職場環境づくりに努めている。利用者の写真使用については契約時に本人・家族に意向確認し、掲載場所別に同意を得ている。個人情報ファイルは各ユニットで適切に保管されている。 |                   |
| 37                               |         | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている           | 日常生活の中で、入居者の思いや希望を聞き取り、おやつ時の飲み物や、レクリエーションなど自己決定や自己選択が行えるよう支援している。                          |  |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第三 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|---------------|---|--|---|-------------------|
|               |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38            | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している  | 入居者の立場に立ち、希望に添えるよう動作や行動などから汲み取り、個々のペースに合わせ楽しみを持ち生活できるよう入居者主体で支援を行っている。   |   |                   |
| 39            | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 入居者自身で好みの服を選んで頂くなど、希望に沿った服装を着用して頂いてる。衣類は家族に用意して頂いている。髭剃りや整髪などを適宜行い、清潔が保てるよう支援を行っている。                                     |   |                   |
| 40            | (19) ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナウイルスの感染対策の為、外食を自粛しており、入居者と共にパン作りや、手作りのおやつを作り、週に2回とくし丸などが来て食べたいものを購入して頂き、好みのものが食べられるような取り組みを行っている。                     | 献立に季節感や行事を取り入れ、今年8月からは、施設の厨房で委託業者がスチームコンベクションによる加熱調理した食事を各ユニットに届け提供している。炊飯は各ユニットで行い、個々の状況に応じた食事形態に対応している。栄養サポート委員会で利用者アンケートを実施し、利用者の嗜好・要望の集計結果を委託業者に伝え、献立や調理方法に反映させている。利用者は日常的に食器拭き等に参加し、毎月の手作りパンの日・手作りおやつの日には好みや力を活かして作業に参加できるよう支援している。通常の外食行事は自粛しているが、移動スーパー(週2回)も活用し、変化が楽しめるよう努めている。 |                   |
| 41            | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 令和4年8月より給食が委託となった。今まで通り管理栄養士と連携し水分量、食事摂取量の共有や、栄養状態に応じ主治医とも相談し助言や指示を頂き、必要栄養素の把握と確保に努め、キザミ食やミキサー食など状態に応じた食事形態の工夫や変更を行っている。 |   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第 | 三    | 項 目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------|------|--|---|--|-------------------|
|              |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42           |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 入居者自身で行える方も見守りにて、口腔内の状態確認や、ポリデント使用し義歯洗浄などを行い清潔に努めている。食事の際に噛みにくいなどが聞かれた際は、家人と連携し歯科受診を相談させて頂き、受診対応を依頼している。    |  |                   |
| 43           | (20) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 排泄希望時はトイレ誘導を行い、個々の排泄時間を把握し言葉がけや誘導を行っている。排泄の失敗が無いよう、おむつやパット類の工夫や調整、トイレで排泄して頂くなどの言葉がけを行っている。                  | 「アセスメントシート」で個々の自立度やニーズを把握し、自立に向けた支援を行っている。「排泄チェック表」で排泄状況・排泄パターンを把握し、排泄の失敗や排泄用品の使用の軽減に努めている。日中は基本的にはトイレでの排泄を支援し、夜間は身体状況に応じて排泄用品や支援内容を変え個別対応している。日々の介護状況・課題は随時職員間で検討し、「申し送りシート」「介護記録」で共有し、現状に適した支援に取り組んでいる。各居室にトイレが設置されプライバシーが守られた環境があり、ドア・カーテンの開閉、声掛け等にも配慮している。 |                   |
| 44           |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 排泄チェック表にて排泄の有無を把握し、個々の状態に応じ水分摂取を勧め、自然な排便を促し、状態により、主治医と相談し下剤処方にて排便のコントロールを行っている。                             |  |                   |
| 45           | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者の体調や入浴の希望に出来る限り沿い、入浴日や時間帯の計画を立て個々に合わせた入浴を実施している。しょうぶ湯やゆず湯など季節感を取り入れた入浴を計画しリラックスしていただけるよう支援している。入浴は個浴である。 | 週3回の入浴を基本とし、循環浴槽の個浴で、個々のペースに合わせてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。浴室ドア・カーテンでプライバシーが守られている。利用者の体力や身体状況に応じてシャワー浴や清拭で対応し、自力で浴槽の出入りが困難な場合にはボードの活用や2人介助で安全面に配慮している。希望があれば同性介助で対応し、現在入浴拒否はないが利用者の意向に沿った支援を心掛けている。年間行事計画に沿って、菖蒲湯やゆず湯で季節感を取り入れている。                                   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第<br>三 | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|-------------------|---|---|---|-------------------|
|                   |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46                | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 入居者からの希望や状態を把握し、日中でも自由に休んでもらえるよう案内し、昼寝の時間を設け、適切な温度調整や遮光調整を行い、夜間巡回時は、就寝を妨げることが無いよう静かに入室している。                 |   |                   |
| 47                | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 各入居者の担当職員が処方箋ファイルを作成し、バイタルや排泄状況に応じ主治医に相談し指示を頂いており、処方箋ファイルや申し送りにて他職員への共有や把握、管理の徹底を行っている。                     |   |                   |
| 48                | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                                 | 入居者の状態により個々に応じたレクリエーション、食器拭きや洗濯物など軽作業の機会を設けている。コロナウイルス感染対策のこともあり、施設内での夏祭りや初詣の機会を設け、少しでも季節行事などが楽しめるよう計画している。 |   |                   |
| 49                | (22) ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナウイルスの感染対策の為、外出は自粛しているが、車中から季節の花を見て頂くなどのドライブの機会を設け、気分転換となるよう努めている。  | 通常は、季節行事や地域行事、買い物・外食等、積極的に外出を楽しむ機会を設けて支援している。現在は状況や時間帯を考慮しながら近隣でお花見や、車窓から季節を楽しむドライブを実施しており、秋には紅葉ドライブを企画している。希望があれば慣れ親しんだ病院や美容院等へ個別に外出同行し、家族との外出時は本人・家族に不安がないよう支援している。地域の移動スーパーが定期的に来訪し、外出に消極的な利用者でも屋外で買い物を楽しんでいる。 |                   |
| 50                | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                                 | 事務所にてお金は管理しているが、毎週月曜と木曜日に移動販売が訪問に来られており、その際入居者にお金を使う機会を設け、嗜好品を購入して頂いている。                                    |   |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己<br>者<br>第<br>三 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|-------------------|---|---|--|-------------------|
|                   |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51                | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている  | 入居者の希望にて、家族との電話の機会を設けたり、リモート面会やガラス越し面会を実施し、家族との関りや繋がりを無くさないよう支援している。                                  | /  |                   |
| 52                | (23) ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日当たりがよく、外からの日光が強いことがあり、カーテンを利用にて光を遮断したり、暑さの軽減を行い、空調管理に努めるなどの対応をおこなっている。整理整頓を実施し、導線を防ぐことの無いよう環境を整えている。 | リビングは多くの窓からの自然光で明るく、季節の移り変わりが眺望できる。動線確保に考慮してテーブル席と大きなソファを配置し、併設のキッチン家庭的な雰囲気がある。テーブル席にはアクリルパーテーションを設置し、消毒の徹底、24時間換気、空気清浄機の設置等、感染防止と衛生的な環境整備に取り組んでいる。利用者と職員が共同制作した季節の装飾作品から、季節感と楽しさが感じられる。配席を工夫し、気の合う同士が会話やテレビ観賞を楽しんだり、食器拭きや洗濯物たたみ、制作等に参加したり、また、ソファで1人くつろいで過ごす等、各利用者が思い思いに居心地よく過ごせるよう支援している。直線の長い廊下に手すりを設置し、壁には各地の名所写真のパネル、行事の写真等を掲載した「ケアセンター便り」、利用者の作品等が飾られている。浴室等をわかりやすく表示し、混乱のないよう配慮している。 |                   |
| 53                | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている   | よく話をする仲の良い入居者同士で席を近くする、一人で過ごしたい方はソファで休んで頂くなど、自己のペースにて好きなように過ごしていただけるよう工夫している。                         | /  |                   |

洲本中川原グループホームラガール

| 自己 | 者    | 第三 | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|----|---|--|---|-------------------|
|    |      |    |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (24) |    | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が自宅にて使用していた家具や、テレビや家族写真、布団やソファなど使い慣れたものを家人様に持参して頂き、自宅のように過ごしていただける空間作りに配慮している。                      | 各居室は木調の落ち着いた雰囲気、トイレ・洗面所と生活空間がカーテンで仕切られ、消臭設備で匂いへの配慮がある。トイレ・洗面台・クローゼット・ベッド・たんす・寝具・カーテン等が設置されている。家族に使い慣れた家具や馴染みのある物の持ち込みを依頼し、テレビ・椅子・クッション・毛布・写真等の持ち込みがあり、安全面に配慮しながら自宅同様に居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。各居室前には表札と共に切り絵作品が飾られており、部屋間違いがないよう工夫している。 |                   |
| 55 |      |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している    | 個々の部屋の判断が付くよう部屋の飾り付けを行い、浴室、トイレなど誰が見ても分かりやすいよう、張り紙などを掲示し自立支援の工夫を行っている。居室入り口には自己の部屋がわかるように花などの飾り物を付けている。 |   |                   |